



南の光明

The Catholic Diocese of Naha Newsletter

今年の教区目標

ゆいまーるの心で
あらゆる絆を深めよう！

〒902-0067 那覇市安里3-7-2
カトリック那覇教区本部
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
発行人 W.F.バートン司教 1部40円
<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2021年12月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第757号 (12月号)

2021年クリスマス・メッセージ「共に歩む」



那覇教区の兄弟姉妹の皆さん、
クリスマス、おめでとうございます。



カトリック那覇教区長 ウェイン・バートン司教

クリスマスが近づくと世の中がワクワク、ドキドキときめいて、街のあちこちでキラキラの輝きが放たれます。昨年はパンデミックにより休止や縮小となっただけに、今年のクリスマスにはこれまで以上に、喜びや楽しみへの期待が膨らみます。さて、このようなクリスマスに対する「よろこび・平和・希望」などのイメージは、どこから来るのでしょうか？なぜ人はクリスマスに心躍らせるのでしょうか？それはやはり、クリスマスの本来の意味が、「あなたがたのために救い主がお生まれになった」(ルカ二・11b)という天使たちのよいお知らせに由来するからだと思えます。キリストは「神の身分でありながら、神と等しいものであることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、しもべの身分になり、人間と同じ者になられました」(フィリピ二・6-7a)、「この方こそ主メシアである」(ルカ二・11c)という福音の深い喜びがこの年中行事のうらみのあるからなのでしょう。

人はだれもひとりでこの世に存在することはできません。弱く、はかないちいさな命として生まれてきます。そして、あらゆるいのちを支えられて成長し、やがて自らのいのちを費やしながら他のいのちを育むものとなります。この当たり前の人生を生き、共に歩むことよって救いとなるために、神みずからが人となり、この世に生をうけたのです。

この史実はなにを語りかけているのでしょうか？すべての人生と共に歩む、ありとあらゆる人生に何かを加えたり、何かを取り除いたりするのではなく、人生そのものが神のいづくしみによるものであり、あらゆる人生を肯定するために「人間と同じ者になられた」(フィリピ二・7a)ということなのでしょう。

無条件に、何も求めずに愛するお方は、徹底的に共にいること、死に至るまで共に歩むために、私たちのひとりとなりました。そして、神か

ら離れたために人間が避けることのできなくなった死をもその身に引き受けたのです。このクリスマスに人はいろいろな意味をみいだしますが、その起源は「神はわたしたちと共にいる」というこの一点なのです。キリストの降誕の物語に示された霊的な事実は、「神はわたしたちと共にいる」まさにそのことです。人生を共にしたいということだけだと思います。シンプルにこのことを受けとめましょう。すべての人生と共にいる神、すべての人と共に歩む神、インマヌエルをそのままに。

このようにクリスマスの出来事を心にとめてわたしの周りを見まわすと、私にかかわるすべての人の人生が素晴らしい輝きを放ちます。どんな人生も主がよしとした魅力を秘めていることに気付かされます。性格の合わないこの人も、言葉のきついな人も、どんなに嫌な人にも神は共にいるのです。

そしてどうしようもないこのわたしも神は共にいてくださるのです。だから、私たちはだれとでも共に歩めるのです。アーメン



2021 Christmas Message, "God is with us"

Brothers and Sisters of Naha Diocese

A Happy Christmas to all of you!

As Christmas approaches, the shopping centers around us are illuminated by special lighting and decorations. There is an anticipation in the air as Christmas celebrations and Masses are being planned. Since this year, it seems that we will have a break from the pandemic for the holidays, people are especially joyful and happy.

Often people think of Christmas as a time of "joy, peace and hope". Where does this image of Christmas come from? The association of Christmas with joy, peace and hope comes from the

Good News that the angels announced to the world on the very first Christmas Eve. "A Savior has been born for you." (Lk, 22:11b).

Our Savior has been born in order to be with each one of us. He came to show us how to spend our entire lives experiencing the joy, peace and hope that comes from being united with God. In the person of Jesus, all of us can know that we are not alone, "God is with us". In the words of St. Paul, "If God is for us, who can be against us?" (Rom.8:31). He further says, "Who will separate us from the love of Christ?" (Rom. 8:35). There is nothing for us to fear. Trusting in God will bring us the joy, peace, and hope that we all want. Again, in the words of St. Paul, "For I am convinced that neither death, no life, nor angels, nor rulers, nor things present, nor things to come, nor powers, nor height, nor depth, nor anything else in all creation, will be able to separate us from the love of God in Christ Jesus our Lord." (Rom. 8:38-39).

Have a wonderful Christmas. May God bless you and your family with good health and much happiness. God Bless.

Bishop Wayne





喜んで主に仕えよ!!

サニー・カンティラーノ神父

具志川教会 主任司祭



として生きることを選ばれたのですが、それは私たちが、人として人生に神様を選び取るためです。私たちの毎日の決定によって、神様の選ばれた種族として価値あるものとなるために、次の三つの局面で、私たちは形成されるのです。

言葉は人となり、私たちの内に住まわれた。

私たちが使う言葉は私たちの種族や文化、伝統によって、違つかも知れませんが、自分たちの内側を見ると、外見の違いはありますが、私たちは皆、一つの世界、一つの島に生きています。同じ空気を呼吸して、神様の傍らで、私たち互いを一致させる同じ洗礼を受けています。今日、この喜びの季節に、イエス様は昨日、今日、そしていつもお生まれになります。挨拶の言葉は、その方法、多様性、意味はたくさんありますが、伝えることは

すべてがクリスマスの霊のうちに表現されます。言葉は違っても、私たちが皆の理由と目的は同じ、私たちが救われるために、イエス・キリストは私たちの住むこの地上に降誕されます。

すべては主を通して造られた。

長く待ち望まれた祝宴の日、その計画と目的はすべて、ひとりの人イエス・キリストを要約しています。今日私たちは、私たちがまだ若いうちに記憶して、家族が共に来て、共に祝い、共に演じて、歌います。そして何よりも私たちの救い主イエス様を記憶して、共に祈るために来ています。私たちの主イエス様は、お生まれになった場所について、不満は口にされません。イエス様のその単純で寛容な心は、飼葉桶にお生まれになったときに現されましたが、それは私たちがへの賜物です。幼子には疑いと疑問の中に置かれたのではなく、約束の成就と見なされます。社会の中で、現在私たちは誰なのか、現在私たちが何なのか、それは単に好機であり、選択なのです。なぜ私たちは生まれたのかという疑問に、行き着くのではありません。それどころか、イエス様の御体と御血に日々養われ、助け、信仰を育

成するためにここにきています。この平和な夜の善と美しさが、また神様の溢れるほどの祝福が、私たちの間に、今日もそしていつも留まりますように。

なぜ、私たちはここにいるのか。

人生の毎日のすべてを、喜んで主に仕えるためです。私たちは誕生して以来ずっと、神様の御厚意を受け続けています。今日はクリスマス、私たちの主イエス・キリストのお誕生日です。私たちは皆、互いにメリークリスマスの挨拶を交わすためにここに来ているのです。それはイエス様の御名によって交わす、平和の歓迎の言葉です。私たちの心の奥深くから、メリークリスマスと言いましよう。なぜなら今日から私たちがいつも、幸せの笑顔でイエス様にお仕えるからです。私たちが家に帰っても、職場でも、街の通りでも私たちの行くところ何処でも、歓迎の言葉が輝き、感じ取れるように願ひながら、私たちは私たちのいるところ何処へでも、イエス様をお連れしましょう。人々はクリスマスと真実な意味と目的と理由を見つけて、それらを体験するでしょう。

メリークリスマス！ そして新年おめでとうございます！

クリスマス



ゆく秋を惜しむ間もなく、冬の足どりを近くに感じる今日この頃、私の近所におられた、敬虔なカトリック信者との出会いで、今日にいたっています。私を教会へ導いて下さった方は、今は亡き洋裁学院長の、平良先生でした。

毎週日曜日、クニヲ先生をお招きして、カトリックの教理を勉強しました。一年が経つて、バレンタイン神父様より洗礼を授けられました。結婚して、四人の子供にも恵まれました。子供達は、幼児洗礼を授け、どの子も小学校の頃までは、教会にも行き神様のお導きに感謝の心でいらしていました。子供達は、高学年になると教会を離れてしまいました。

クリスマスが近づくと、バレンタイン神父様からお呼びがかかります。貴女は親の役目を果たしていますか...でも神様は貴女に無理をおっしゃいません...三十年が過ぎ、子供達はまた教会を訪ねません。

「クリスマス」 苦しむ人、悲しむ人、重荷を負って悩む人に慰めが与えられ、すべての人が、信仰の光に照らされますように、互いにゆるし合う愛をもって、クリスマスを迎えることが出来ますように。

「祈り」 信仰によって豊かな心で、お恵みをお待ちしています。

「命ある限り、恵みと慈しみはいつも私を追う。主の家にわたしは帰り、生涯そこに立ちます(詩編23:6)。

(具志川教会 高江洲良枝)

2021年11月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2021年11月10日(水)、会議は名護教会にて

1. 報告及び連絡事項：始めの祈りはクレーバー神父、司会はヨアキム神父が担当。

- ・前回(10月会議)の議事録の確認を新田が行い、世界青年の日の開催日について質問が出された。昨年まで「枝の主日」に行われていた世界青年の日は今年から「王であるキリスト」の祭日に変更され、また2022年の典礼歴では6月24日(金)に「イエスのみ心」と「洗礼者聖ヨハネの誕生」の祭日が重なることを受け、同年の「洗礼者聖ヨハネの誕生」を6月23日(木)に移動させることが常任司教委員会で決められていることが確認された。
- ・ウェイン司教から、自身の健康面の状況が報告され、予定されていた司教訪問の日程などが変更されたことへのお詫びと、状況を踏まえ適切な対応を取ってくれた司祭たち、教区事務所スタッフへの感謝が述べられた。

2. 審議事項

- ・緊急事態宣言解除後の教会活動について、ウェイン司教より要請が行われた。県も11月中はリバウンド防止と社会と経済活動の両立期間と位置付けているので、緊急事態宣言が解除されたからすぐ教会活動を元に戻すということできない、慎重に徐々に進めていかれるようお願いしたいとの要請があった。司教の要請を踏まえ、各主任司祭たちからも様々な意見が述べられた。
- ・マーシーさんから司教日程について調整が行われた。11月の公式訪問等について、11月14日が首里教会。19日福岡での会議が予定されているが調整中。20日首里教会にて GFC のミサ、21日真栄原公式訪問の予定が確認された。12月は3日午前10時より愛楽園での公式訪問ミサ、24日は開南教会で午後7時から主の降誕夜半のミサの主式、25日午前10時から安里教会で主の降誕日中のミサ、26日午前はコザ教会公式訪問、同日午後、教区青少年の集いミサが予定されていることが報告された。また翌年1月23日は具志川教会で午後3時～サントニーニョのお祝いのミサがあるので、司教と共に、司祭たちへも参加の呼びかけが主任のサニー神父より行われた。
- ・教区シノドスについて、担当のマイケル神父より報告が行われ、教区でこれから取組んでいくことの日程表が示された。特に教皇庁シノドス事務局が各教区からの意見を司教団がまとめる期限を延長したことから各教区から日本司教協議会への意見書提出期限を4カ月延長し、6月4日としたことを受け、那覇教区内の各小教区等の意見書(A4用紙三枚以内)のデータファイルを2022年4月5日(火)までにシノドス連絡担当司祭へ Eメールで提出することが要請された。また、来年2月11日の「教区の日」か、5月の連休頃に教区内の諸意見を分かち合う「シノドス前会議」を予定していることや、そこに向けてシノドスの祈りと意見聴取のための質問集をすでに各小教区主任や修道会等の責任者宛送付してあるので、よく活用してシノドスの歩みを出来るだけ多くの人と共有をするよう要請がなされた。今後は、教区司祭団で「シノドス前会議」の具体案を検討して次回の会議に提案し、12月会議で決定することが確認された。
- ・2022年、待降節第一主日から変更が予定されている新しい典礼について、典礼担当のプイ神父から報告があった。変更箇所の式文と解説の冊子が出ているので、各司祭たちに読んでもらって上で、意見を分かち合いながら教区としての取り組みを進めることが確認された。
- ・12月8日(水) 無原罪の聖母の祭日に合わせて閉幕される「聖ヨゼフ年」について、典礼担当のプイ神父より提案が行われた。聖ヨゼフ年の開幕は聖ヨゼフを保護の聖人に頂く石川教会に司祭たちが集合して行ったが、閉幕は司祭会議を12月8日の水曜日にずらして安里で行う案が提案された承された。12月8日は午前9時半から「聖ヨゼフ年」の閉幕ミサを行い、ミサ後に司祭会議を行うことが決められた。
- ・教区報担当の新田から、教区報12月号に毎年掲載される各小教区のクリスマスと年末年始、主日週日のミサ時間等に変更があれば11月28日までに連絡されるよう要請が行われた。
- ・青少年の集いについて、クリスマス会を兼ねて行いたい旨、担当のヨアキム神父から報告があり、日程は12月26日(日)午後とするが内容については後日、各小教区宛送付することが報告され、司祭団、特に各主任司祭の協力が要請された。

その他

- ・11月20日(土)、午後4時から首里教会で予定されている GFC のミサについて、担当のロドニー神父から教区の司祭たちへの案内と参加の呼びかけが行われた。
- ・カリタス那覇担当のマーシーさんからカリタス那覇の活動の一環として、11月に安里、12月に開南教会で、生活に困っている方々への支援物品の募集活動を予定していることが報告された。
- ・開南教会主任の古川神父より、有馬神父の近況について報告があった。週2回のデイサービスに楽しんで出かけられておられることや、信徒たちの助けを借りながら、元気に過ごされている様子が報告された。
- ・次回司祭助祭拡大会議は2021年12月8日(水) 午前9時半から安里教会で「聖ヨゼフ年」閉幕ミサ、その後司祭会議を教区センターで行う予定となった。

教区 NEWS 教会

司祭・助祭研修会

名護教会

去る十一月八日〜十日まで、名護教会を主会場に、教区の司祭、助祭の研修会が行われた。

横浜教区、横須賀教会で主任司祭を務める濱崎真実神父を講師にお招きして、濱崎神父様が歩んできた司祭としての体験や経歴を分ち合い、聖書の教えを深く掘り下げてお話しくださった。



まだコロナ禍の不安が残る中、十分な対策の下に研修会を行うことができたことを感謝したい。最終日は司祭・助祭拡大会議も行われ、充実した二泊三日の研修となった。



司教様公式訪問

真栄原教会

十一月に十一日の「王であるキリストの祝日」は真栄原教会の記念日に当たり、ウエイン司教様の公式訪問がありました。

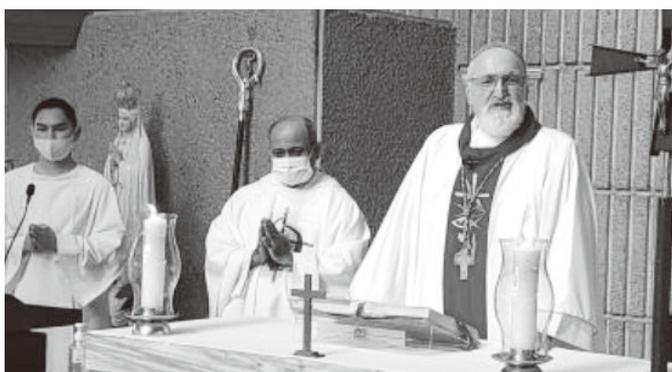
私達は、昨年四月以降、三密を避けるため、日本語ミサと英語ミサの二グループに分断されていきました。しかし、新型コロナウイルスの感染がやや落ち着いて来たのを受け、

今年の記念ミサは、一年八ヶ月ぶりに合同で捧げることとなりました。久しぶりの合同ミサは、マスク着用、消毒、換気、典礼聖歌の唱和制限など、三密対策を取りながらです。以前どおりとは行きませんが、長いトンネルを抜けようとする新たな始まりを感じました。今後も様子を見ながら、合同ミサを続ける予定にしています。

記念ミサは、デニス神父様との共同司式で十時より捧げられました。司教様は、説教の中で、当日の福音(ヨハネ十八・33b-37)を受け、イエス様が証する真理は聖書から得られることはもちろんだが、祈りを通じて心の中から聞こえて来る。

私達が何かに直面する時、イエス様ならどう考え、どう行動するかを深く考え、後に付いて行くことが大切であると、司教様ご自身が入院された時の体験を交えて解説してくださいました。さて、司教様は病床で何を考えたか? 「明日から司教館で仕事すること」だったそうです。なるほどです。

ミサに引き続き、僅かな時間でしたが、語らいの場を持つことができました。司教杖や丸い帽子(ス



ケット)の意味、少年時代の夢など、質問に丁寧にお答えいただきました。また、入院時、日本人に合わせた投薬量では効き目が弱く、三倍の量が必要だったことを、主治医が多いに反省したなど、面白おかしく披露されました。今回の公式訪問、ご自身で車を運転して颯爽と現れ、私達はびっくり。以前にも増して元気そうなお姿に触れることができました。ウエイン司教様、これからもよろしくお願いいたします。

(千村次生通信員)

洗礼と堅信のお恵み

宮古島平良教会

十月三十一日、ウエイン司教様の公式教会訪問は叶いませんでしたが、押川名誉司教様にいらして頂き、中学生二名の堅信の秘跡と一人の大人の洗礼と堅信の秘跡を授けて頂きました。

左記の方々が受洗、堅信者です。

受洗、受堅者

ペトロ 河下征也 五十歳

受堅者

マリア 下地琴葉 中学生

エリザベト 砂川秀美 中学生

(フリッポ 藤澤幾義神父)

Book カトリック文化センターから 年末年始のお知らせ

コロナ禍の厳しい状況の中、本年も皆様には文化センターをご利用いただき、有難うございました。文化センターは12月25日(木)と12月29日(水)~2022年1月3日(月)までお休みとなります。1月4日(火)から営業を開始いたします。来年もよろしく願い申し上げます。皆様にとりまして良い年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

カトリック文化センター
問合せ:電話098-868-4649(崎山・新川)

声

角笛

追悼

ラサール・パーソンズ 神父様を偲ぶ

介護老人保健施設

「あけみおの里」

施設長 石川 清司

九月四日（土曜日）、静かに天に帰ったのです。旅路の終幕も「ラサール節」での個性に満ち溢れた幕引きでした。

略歴です。

一九三〇年十一月十七日、米国、ニューヨークにて十人兄弟の十番目、末っ子として誕生。一九五七年六月二十二日、司祭叙階。一九五八年九月十六日、午前二時、宣教師として来沖。

「グスーヨー」と沖縄の方言で語りかける笑顔が印象的なラサール神父様が二〇二二年九月四日、土曜日の夕刻、九十二歳で、静かに息を引き取られた。印象に残る三日間がそこにあった。約一年半の間、名護の街にある介護老人保健施設「あけみおの里」においてリハビリに専念されました。発熱や疼痛といった苦痛も無く、ごくごく自然な老衰の経過を辿った。九月二日（木曜日）、上司の司教様が老健施設を訪ねてこられて祝福の祈りがあり、九月三日（金曜日）、ご本人の意向もあり、那覇市の小緑の-high台にある住み慣れた修道院へ戻ることになった。当日、多くの知人との再会を果たされ、

沖繩の第一印象は、ニューヨークの自宅の地下室の空気と飛行機から降り立つた際の沖繩の空気の臭いが同じであったとの記録があり、ごく自然に沖繩の地になじむことになりました。その日は、沖繩の通貨であったB円がドルに変わった、その日でした。

私と神父様との出会いは、私が高校生の頃でした。何事にも挑戦的なラサール神父様と対照的に穏かな雰囲気を感じたラサール神父様の青年宣教師としての新鮮な面影が偲ばれます。

一九五九年四月、首里の地にコレジオ学生寮が建築され、指導司祭として着任し、その後約三十年余にわたり学生と寝食を共にし、教育界を含めて多くの人材を育成し、世に送り出して

いきます。琉球大学が首里の地にあった当時のことでした。大学紛争があり、激動の時代でしたが、琉球大学の英語講師として約十年間の勤務歴もあります。

一九九〇年、アムネスティ・インターナショナル沖繩グループの代表に就任、沖繩人権協会の理事も併任され、人権擁護の活動並びに反戦平和の運動に参画。一九九六年五月、「沖繩・生と死と老いをみつめる会」を組織し代表に就任、首里の興善寺禅堂堂主の崎山宗源老師と二人三脚、

アンジェラ会

首里教会・宮里スミ子

先月三十日はSr.アンジェラ徳田節子の一周忌でした。シスターの修道名を頂いて付けたアンジェラ会のことをご紹介したいと思います。

私たちは戦後入学した琉球大学で「カトリック研究会（通称・カト研）」と出会い、洗礼を受けた者たちの集いです。貧しい沖繩の苦学生たちを、チャールズ神父様をはじめとする宣教師の神父様方がとても可愛がって導いてくださいました。

約二十年余にわたり指導的役割を果たされました。

二〇一四年、那覇新都心のカトリック文化センター長に就任、国立病院機構沖繩病院倫理委員会外部委員を併任、健全な文化の創造、人材育成、反戦平和の啓蒙活動に尽くされました。

来沖、六十年余。正義感に燃え、改革への挑戦する心の大切さを行動で示されました。新型コロナウイルスの嵐についても、自然界は、今を生きる個々人に對して、「生」と「死」と「老い」

チャールズ神父様が還暦を迎えた頃、それぞれが社会人として家庭を持つたり、社会の一線で活躍する中、先輩たちの呼びかけで、チャールズ神父様を囲んで食事をしたり、勉強会をしていくグループとして「チャールズ会」を発足しました。そのメンバーの一人でもあったSr.アンジェラ徳田節子がペルーの沖繩移住者の村へ派遣されることになり、私たちも何らかの支援やお手伝いができればとの思いから、「チャールズ会」のメンバーを中心に「アンジェラ会」を

のテーマを真正面にとらえて、自らの生きざまを見つめなおすよう求めているとの思いでした。ウチナンチュ・ラサール・パーソンズ神父様、ご苦勞様でした。沖繩の空気と太陽のもとでゆつくりお休み下さい。感謝。そして感謝。

なお、詳細につきましては『グスーヨー「ラサール」でーびる』（沖繩タイムス出版部、二〇一七年）に、「こよなく沖繩を愛する宣教師の物語」の副題でまとめ、出版しておられます。

足することとなりました。メンバー十五人で会費を集め、ペルーへは修道会を通して支援物資や寄付を送ったり、シスターが帰国して海星小学校へ勤務されてからは、学校のために役立ててくださいとお願ひすることができました。

毎月一度の食事会を行いながら、特別な時にはごミサを依頼し、神父様への誕生祝いやお見舞い、香典等、二十五年余りに亘って活動を続けてこられたことを感謝しています。

同じ頃に大学で学んでいた

那覇教区青年・青少年部

クリスマス会

2021/12/26(sun)

@安里教会

- 14:00 集合 (お手伝い募集♪)
- 15:00 ミサ (Bp.ウエイ)
- 16:00 ビンゴ大会 (豪華景品あり)
- 17:00 解散 (お片付けも♪)

★ 感染症予防対策にご協力下さい

(マスク着用・検温・手指消毒・ソーシャルディスタンス)

Fr.□□ニーサンタさんからクリスマスプレゼントもあるかも♪



訃報

◆与那原教会

ドミニコ 内山 芳樹 様 2021年11月16日帰天
享年90歳



葬祭の
「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里烏掘町4-57-3
TEL&FAX:098-885-8205
<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間
受付

Sr.中村と勉強会をしたり、ルイス神父様やラサール神父様をお招きして、楽しく談笑出来たことは本当に良い思い出です。
時間の経過と共に、集まれる人数は少なくなってきましたが、メンバーお互いの健康と教区の発展を願ってやみません。特に若い人たちが同じ信仰に結ばれて、キリストにおける兄弟姉妹として、長い関わりを繋いでいってくださることをお祈りしています。



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーションクララ

TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

- ・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)
- ・営業時間 8:30～17:30
- ・営業日 24時間365日(緊急対応含む)

「パードレ・ピオの集い」開催

日時：2021年12月21日(火) 午前10時～午後2時

場所：カトリック普天間教会

指導司祭：ペトロ・ヴォン・エッセン神父(カプチン会)

※コロナ対策のため当日はマスク着用をお願いします。又各自で飲物とスナック(おにぎり等)必要な方はご持参ください。弁当の用意はありません。どなたでも参加できます。

連絡係：屋宜留美子(石川教会) 090-6857-7321

比嘉須賀子(首里教会) 070-5813-2557

～ご遺族の心をもって奉仕する～
そうてんしゃ

葬典社

- *創業30数年・・・。
- *皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
- *ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。
「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく
☎098-853-1059



主日・クリスマス・新年のミサ時間案内

Mass Schedule

教会	主日のミサ Sunday's Mass		クリスマス Christmas		新年 New Year	司 祭 Priest	TEL
	日曜日 Sunday	土曜日 Saturday	24日(金)	25日(土)			
名 護 Nago	10:00		19:00	19:00	10:00	ボスコ・ティン師	0980-52-2241
愛楽園 Airakuen	8:00		8:00		8:00	ボスコ・ティン師	0980-52-8379
読 谷 Yomitan	9:00 11:00		19:00	10:00	10:00	リカルド・ブガス師	098-956-3789
石 川 Ishikawa	9:30	17:00	19:00	10:00	10:00	ヨアキム・ホアイ師	098-864-2084
具志川 Gushikawa	9:30		19:00	9:30	31日 19:00 1日 10:00	サニー・カンティラーノ師	098-974-3643
泡 瀬 Awase	9:30	19:00	19:30	19:30	31日 19:00 1日 9:30	ヨゼフ・ブイ師	098-937-3598
コ ザ Koza	8:30		19:00	8:30	新年1日 10:00	ピーター・チェ師	098-937-7064
普天間 Futenma	9:00		19:00	19:00	31日 19:00 三が日 9:00	ナビーン・セクウェーラ師	098-892-2503
真栄原 Maehara	10:00		19:30	10:00	1日 10:00	デニス・フェルナンデス師	098-897-7484
首 里 Shuri	9:00		19:00	10:00	1日 10:00 2日 9:00	ロドニー・モンディド師	098-884-4787
安 里 Asato	9:00	19:00	19:30	10:00	新年1日 10:00 19:00	フランシス・ティエン師	098-863-2021
開 南 Kainan	9:30 19:00		20:00	15:00 20:00	0:00 9:30	古川政孝師	098-832-3037
小 禄 Oroku	10:00	19:00 English	19:00	10:00	三が日 10:00	マキシム・デソーザ師	098-857-2128
与那原 Yonabaru	8:30 10:00		未定	未定	未定	クレーバー・ディ・ソーザ師	098-945-2355
大 里 Ozato							
宮古島平良 Miyakojima	9:00		19:00		新年1日、2日 9:00	藤澤幾義師	0980-72-2445
保 良 Bora		17:00		14:00		藤澤幾義師	
南静園 Nanseien						藤澤幾義師	
石垣 Ishigaki	9:00 10:00	毎日6:30	18:30	18:30	31日 19:00 1日 10:00	マイケル・ヴィン師	0980-82-2322

※スペイン語ミサは来年以降の予定が未定のため、掲載を見合わせています。
読谷と普天間でのスペイン語ミサについては、直接主任司祭にお問合せ下さい。